

平成14年

12月

お知らせ **むこがわ**

「みんなで作る明日の武庫川」
ホームページ

<http://web.pref.hyogo.jp/hanshiriki/ta/kendoseibi/takarazuka/mukogawa/>

「むこがわ勉強会」で回答いただいたアンケート等に記入いただいた意見や感想を紹介します。

「むこがわ勉強会」では意見交換やアンケートなどで多くの貴重な意見をいただきました。今月号ではアンケートに記入いただいた意見や感想を紹介します。勉強会(講習会)の意見交換でいただいた意見や勉強会の実施状況は、「お知らせむこがわ平成14年11月」や武庫川ホームページをご覧ください。

むこがわ勉強会(講習会・ウォーク)のアンケート等に記入いただいた意見

注) : 講習会のアンケートより
: ウォークのアンケートより
(斜字) : 解説のために挿入した部分

武庫川委員会・準備会議について

武庫川委員会の委員に議員を入れる必要はないと思います。別に発言の場があるので。特定の利益代表の議員になる可能性がある。

武庫川委員会の委員構成について。学識経験者に河川、水文専攻者が考えられているが、その他に地質、植性の分野も加えるべきである。

(武庫川委員会や準備会議の委員構成に対して)ニュートラルを信じてます。

水を治める者は国を治めると言われる様に治水は国、行政の責である。どの程度の安全率で整備(安く、効果的に)する責任がある。意見を聞いてできるか?(それぞれの思いがある)。行政の姿勢を示しそれに対しての意見を聞く方がと思う。選ばれた長、議員で論議し決定してゆく、これが今の日本の民主主義。

住民委員は、河沿いの住民すなわち増水時には被害をこうむる住民を多く加えてもらいたい。

武庫川委員会に議員は入れるべきでない。(議会議論すべきだ)

武庫川の問題について、上流域と下流域では、市民の関心となるのが大幅に違うように思います。自分達の住む流域を中心にしていただけば有難い。

河川計画を策定する委員会の設置は、河川流域の住民である私たちが、武庫川のこれからを決める場に関わっていけるということを意味するのであれば、大変よろこばしいことです。そのためには、委員の選定や委員会などが常にオープンな状態で進んでいく必要があると思いますので、そうなるよう望んでいます。

武庫川委員会に入って貰うのに適当な人材があれば一般からも公募や推薦枠を設けて入れるような仕組み作りをして欲しい。

9月14日武庫川勉強会で「準備委員会で住民の意見をどう取り入れるのか諮りたい」とおっしゃっていたが、準備委員会から住民参加(レジュメどおり)が必要と思う。

私は 自然に逆らうな、人工物は必ず壊れる、生活する上でリスクは必要である等の考え方ですから、

10年周期以内の危険性は排除するべきですが、50年、100年周期以内のリスクは住民が持つべきだと思います。反面、地震の断層、水害の可能性、土砂崩れなど自然災害のリスクマップを作成し縦割り組織を超えて、市民に配布するべきだと思います。例えば、自然災害の中で、地震、台風(竜巻)は広域で無差別に襲って来ます。しかし、水害、高波等は基本的に限定的な場所であり、被害です。同時に予知も対策も出来ません。従って、武庫川ダム建設反対が多く、賛成者が限定される理由も、環境(自然破壊)、動植物の生態、財政的理由、無駄な公共投資等様々な要素はありますが、多くの市民が望んでいないのに、勝手に大金を使いもってもらいたい理由をつける行政手法に我慢が出来なくなっている事も確かな理由ですし、発想や価値観が狭く、優れた様々な発想や意見を取り入れなかったことも確かだと思います。そうした流れの中で、今回、準備委員を決め、武庫川委員会を作ろうとしています。従来の委員会に比べ、地域住民の参加には賛成です。しかし、兵庫県の場合、常に学識経験者が主導的立場に座り、その人たちが専門知識の関係もあり、大局的判断より、個別的検討・判断を優先する傾向にあります。むしろ、企業経営者とか市民活動家など、大局観と先進性に優れた人がリーダーになるべきだと思います。次に、今回の準備委員会や武庫川委員会が兵庫県側が自分たちに都合の良い人たちを選別しない限り、混乱は必至です。価値観や発想が違う人たちが集まれば、昔と違い、正論が一杯あるわけですから、中々、まとまりません。そうした一元的なやり方ではなく、準備委員会をテーマ別(治水・利水・環境・親水)に分けて行い、その中から同人数(例えば10人づつ)を選抜し、武庫川委員会を合議制にすれば、結果的には一般市民が望む総合的な意見集約になるのではないかと思います。最近、兵庫県は様々な分野や会合で、市民の参画・協働を進めておられます。しかし残念ながら、学識経験者が中心であったり、市民に任せられなかったり、協働の意義が理解されていなかったりして、むしろ、市民の反発を買ったり、目的が達せられなかったりしております。別の視点から申し上げますと、ハード面(建築・建造物)と体制づくりは出来るが、ソフト面(遊び、やりがい、楽しさ、満足感など)市民に対するインセンティブや参加意識の高揚に大きな欠陥を感じます。県の立場が市の横軸の関係となり、各市町が合併を含めて自律に向かっている現在、県・市の役割分担の整理、河川・道路など広域な領域の権限を今まで以

上に国に要求するとかを含めて、広域での活動をより求められていると思います。従って、今回の武庫川に関する取り組みは正に、兵庫県の能力や手法が試される場となりますので頑張ってください。

河川の計画について

これからの時代は、持続可能な社会を、行政、民間企業、そして地域住民が協力してつくりあげていくのだと思っています。よって、武庫川も「街づくり」の一環としてとらえ、総合的な開発が必要だと思います。子供だけの遊び場ではなく、幼児から少年、青年、そして、高齢者にとっても、くつろげる場所であるべきだと思います。ピオトープをつくったり、大人が楽しめる(環境に配慮した)レストラン、カフェをつくったりするのも良いと思います。

川は「子供たちの遊び場」「市民のいこいの場」だった。今はスポーツランドしかない。森が川の源。森の整備、保水力をもっと考えて欲しい。

武庫川の上流の開発が進み、雨が降れば、武庫川に急に水が流れ込み、下流が天井川となった武庫川では洪水が心配である。川底の掘下も結構だが、早く武庫川ダム建設を進めて下流住民の生命と財産を守る様にしてもらいたい。

人工的な治水ばかりでなく、環境による治水対策を盛り込んでいく事は、大変だと思いますが、世界中の見本となるような治水を武庫川から発信したいです。

県庁内の各部局を統合した組織を作って対応しなければ総合治水対策はできない。

自然と住居と同等に考える事はできない。生活環境の変化にあわせた方法で考えてほしい。水道水利用も多いと思います。

もうすこし川に学ぶ自然環境から川からめぐみを考えてください。

治水・利水を中心にした武庫川整備計画のようですが、今盛んに行われつつある「近自然工法」、昔のように水生生物が戻ってくる自然の武庫川づくりを含めた計画であってほしいです。

たてまえじゃなく、本当に皆で河のことも人間や他動植物、森のことも考えて共存したいものです。

ダムを作るということは、自然の生態系がかわると考えられます。ダム以外に治水の方法はないのか十分な検討をお願いしたいと思います。

川には日常的、非日常的な表情があるが洪水時は非日常的で、その対応はハード策(河川改修、ダム建設等)である。しかしながら、ふだん目にするのは日常的でそこには川の風情、景観が求められるが、(講習会での説明には)その対応が抜けているのではないか。自然の環境の概要はわかったが、ダム建設によるその保全、復元、創造の視点が欠落しているのではないか。

洪水だけでなく濁水にも対応できる川であってほしいです。いろいろな意見が出て、問題が混乱するのをこわがらないで、一步一步みんなで解決していきたいです。

武田尾付近の親水施設は自然になじんでいない。あまり人が手を加えないゾーンとしてもらいたい。

対策検討スケジュールが示されないため、不安感が大きい。(治水対策を急がねばならないのに意欲がうかがえない) 計画規模は浸水予想区域の人口、資産に応じた決めるべきで、河川種別等一般的な区分で決めるも

のではない。(流域面積とは関係ない)

武庫川ダム...十分検討してください。

これまでは比較的軽視されてきた環境面への配慮がこれからは大切になると考えます。この面からの取り組みにも期待しています。

治水、利水、環境の柱のもと、より良い保存と創造がなされていくことに期待を寄せています。県民の一人としても協力可能なところは動いていきたいと思いました。

今日見学した範囲(下流)においても、ワンド、ピオトープなど自然回復のための処置を出来るだけ考えていただきたい。例：猪名川のドラゴンランドせせらぎ水路もささやかな一つのモデルと考えています。あまりにもささやかで涙をこらえている人たち(年配)も多いでしょう。子供たちは今の状態が普通と思っている。しかし「子供たちのために自然を回復」することが急務ではないでしょうか？

都市を流れる武庫川で多くの生物の命が育まれていることにも関心が向けられます様、自然保護と人間社会の共存について市民の意識が高まり行政にも反映されます様希望します。

「環境」に対する勉強はこれから。住民と一緒にやっていきましょう。

武庫川の整備基本方針・整備計画策定に関して。まず、治水ありきと考える。市民の命、財産を守った上で余りの部分で多自然工法、環境保護を考慮すべきではないか。環境保護を訴える場合、自宅が移行帯で土地収用されると言われたら、立ち退くのか。環境、生物の多様性とはいうものの、例えば、日本の稲作農法によって偶然生き延びた生物のみにスポットを当てた保護に偏ってはいないか。ピオトープは芸術では無い。今、社会の中心的存在である団塊の世代が子供の頃の自然に戻すことを目指しているようにみえるフンがあるが、ノスタルジーでは未来につなげない。多自然工法では、本来河床に存在する玉石で護岸を覆いつくし、やれ多自然の、近自然のといっている。空隙質の岸辺、護岸にすることは大切と思うが、裏はコンクリート擁壁等の硬いもので守り、決壊を防ぐことが最重要と考える。コンクリートだからダメとは言い切れない。ポーラスもあればカラーや擬岩もある。水際は中小の洪水によって攪乱を繰り返すものである。R型・M型の淵や湾曲部対岸の堆積以外は日常変化するものではないのか。ドイツ、ドイツというが、勾配や流況が違いすぎる。(伝統工法なら話も分かるが...)ダムが必要か不必要かの判断は後日を待つが、昭和58年の洪水では溪谷より下流で340mm(時間雨量64mm)が降っている。ピークをカットして河川に余裕があれば流れ込むという次元ではないと思う。それぞれの小さな流域で流入量を計算し、それぞれ取れる対策をするという流域対策に重きをおき、下流のわがままを上流に押しつけない整備が必要と考える。

各単位流域で浸透・貯留対策をとった上でまだ不足ならば、ダムはやむを得ないのでは。確率年と対象流量については、わかりません。流域の開発による流出率の変化とのいたちごっこのところもあるでしょうし、安全率といわれてしまえばなんとでも...

その他意見・質問・感想

講習会について

わかりやすかった。パワーポイントの説明。意見内容の多さに比べ時間が少ない。

流域の状況の「資料1」が良く出来たと思います。もっと環境(自然の)話をしてほしい。小学生へのアプローチを考えてほしい。小学生向けの副読本(出前授業のテキストとしても)の発行。

配布資料が字が小さく見づらい。会場を見ても高齢者が多いです。メモ部分はこんなに不要です。

河川の計画流量の算定方式について難しかった。

計画流量の算定方法、わかりづらかった？

川を上流・下流から整備されていることについて、くわしく御説明を頂き、多くのことを知る事ができました。

計画水量の算定方法はよくわかった。他の河川の算定方法と武庫川の算定方法に違いがあるかどうか、(異なっていると聞かすが・・・)知りたい。

武庫川推進のための勉強会にならない様に。ゼロベースからの出発であれば武庫川ダムは白紙に戻すべきである。

遊水地について、各分野の利用方法がよかった。河川の名称がわかった。

本日はいろいろと詳しくお話をうかがい勉強になりました。参加させていただいてよかったと感謝しております。ありがとうございました。

高水量や計画流量など、言葉の意味はわかりました。算出方法について、その方法は、どのような意図か等、今後もう少し詳しく知りたいです。こういう勉強会の機会を得て良かったと思います。県の前向きな姿勢もわかりました。

住民の意見の集約をWebページに載せてほしい。

テーマを治水・利水・環境に加え、親水は入れるべきです。理由は主管窓口が河川対策になるのは当然としても、市民の参画・協働の意義も考慮し、多くの人の関心と参加が先ず必要であり、教育・コミュニティ等要求度はかなり高いと思います。

治水の大切さはよく理解できました。武庫川を愛している者としてもっともっと武庫川ののことをしりたく今後も勉強会に参加したい。

基本高水(4800m³/s)：最小1500～最大6900m³/sどうしてこのような範囲の広い数値が必要なのでしょうか。58年の甲武橋の実測の流量/sはどうだったのでしょうか。クリーガー流線で検討したとき、500km²の地域で瀬戸内海側の河川で検討すると甲武橋では3000～3500m³/s(1/100年)で充分とおもわれるのですが。

画面に連動させた資料はわかりやすく説明が良く理解できた。治水対策と直接の関係はないが、武庫川河口部(特に43号線から湾岸線にいたる河口周辺部)の水質の状況、定期的に検査しているのであればそのデータなどを知りたい。

大変勉強になりました。ご苦労様でした。

あまり専門的な説明で一寸わかりにくかった。(具体的にハッキリ話してほしい)今日の参加者はあまりにも少ない。もっと参加してほしい住民はあまりカンシンがないもようと思う。当局側は多くの説明員がおられ誠意があると思った。

短時間であるが、映像をとおしてよく理解された。継

続して研究会を進めていくべきだ。

流域の状況で下流部(浸水予想市街地)の様子がわからない。猪名川等で浸水予想図が公表されたが武庫川でも公表し下流住民への防災意識を高めるべき。浸水区域の等高線図及び河川縦断を流域の状況へ加えてほしい。知識量の差の大きい市民対象なのでよりわかりやすく。自然環境の話が少し難しかったです。その生物種の生息が何を示すのか、説明して欲しかった。会が一方的で、説明的すぎる気が・・・もっと双方向・参加型で！！とても良くわかりました！

開催日(9/27)は三田市の行事とバッティングして出席者が限定されてしまった様で残念です。

有馬川との合流地点。樹木や草にビニールシートなど汚物がひかって非常にみぐるしい(JRの窓から良く見える)。どうにかならないか。武庫川の水質。県としての基準値、又は推奨値は、どのくらいか、それに対する対応は。酸性雨によるPH値が高くなってきている。特に三田地区は高速道路、176号線など排気ガスが増加傾向にある。今後の対応は(施策は)。

下流ウォークについて

担当部局に、専門家が配属されている行政システムに大変うれしく思いました。中流抜きの学習会なので中抜きで残るのは残念！やはり中流も色々なこと、教えて下さい。知りたいです。

現在までの河川改修状況と今後の継続計画および高水敷の最終計画(構想)をきちんと説明していただきたい。

こう言う行事は大切なことです。もっと多くの人が集まる様にPRしたら良いと思った。夜集まってレクチャーだけでは良くわからない。いいことです。

専門用語がわかりにくいので漢字を入れながら説明して下さい。武庫川について知りたいことが多かったのでかなり色々な疑問が解消されうれしかったです。色々な準備が大変だったと思います。おつかれさまでした。ありがとうございました。

説明は分かりやすかった。興味深い体験でした。

改修工事のことに的をしぼって説明して欲しい。下流、上流のウォッチングだけでなく中流域についても実施して欲しい。

おおむね良好でした。

どんな被害があったのですか。本当にありましたか。

なかったと思います。(58年洪水被害説明に対する意見)

意見が出ていましたが武庫川ボランティアのようなもの(組織)の設立。(例：カンひろいグループ。植林グループ。川の清掃。)

森の問題は、市民運動として盛り上がるべきで行政がやるべきではない。先日の親水護岸(夙川)の事故について総括されていないと思うが少し触れて欲しかった。堤防区間(内水区間)は河川整備だけではむづかしいことを説明して欲しかった。

総合治水の手段にどのようなものがあるのか詳しく。それぞれの確実性、能力、値段など。

熱意に感服。今後も継続されたい。上流(源流)の自然にふれる機会を作られたい。

だいたいにおいて説明は分かりやすくよかったです。ただ思っていた以上に人数が多かったので集団で聞く説明よりも歩きながら職員の方々に聞く話の方が印象的で楽しかったです。話を聞きやすい雰囲気、また、

多くの職員の方が一緒に歩いて下さったのが良かったと思います。又、歩いている参加者の方々が色々良く知っているのも驚きました。参加者は多くておどろいたのですが同世代の人は少なく？(いなくて)もう少し増えたらいいなあと思いました。大学で環境の事を勉強しているのでとてもよかったです。ありがとうございました。

すべてによくわかりやすく大変勉強になり、武庫川の歴史と現状がよく理解できました。ありがとうございました。

治水が我々の生活に大切な事業であることを再認識しました。これわ大いに感心をもって見守って行きたいと思っています。関係の方々の御苦労がよく分かり、マスコミの意見など片よった見方にならないよう気をつけて行きたいと思います。

今回の行事を県がやっている事を知らなかった。

やはり実際に現場を歩いて解説していただいた方が格段にわかりやすかったです。(前回の室内のセミナーに比べて)さらにもっといろいろと知りたいです。

治水の大切さ御苦労がよくわかりました。

今少し武庫川の歴史を知りたかった。改修工事の時期に外国人をつかったこと。

普段なにげなく見て通り過ぎるこの河の歴史等開眼され今後見る眼も違った感じです。よかったですと思います。

青野ダムウォークについて (文中の魚道は青野ダムの多自然型魚道を指します)

みんな分かり易いようにご説明下さったので嬉しかったです。すばらしい魚道のこと今日初めて知ったのですが、折角の施設なので、もっと皆に知らせて色々知って貰いたい。参画と協働の精神を大切にね。魚道についてとても興味がありました。阪神間に住む人々にとっての母なる武庫川をもっともっと知りたいと思います。

ダムの機能についての説明は、資料の提示もなされ、よく理解出来たのが良かったと思います。

治水・水利・環境を考えたダム管理という事が大切でよい勉強になったと思います。自然型魚道が試みられているのを見て自然環境を生かした良い方法だとは思いますが意図する様に魚の誘導が思う様になるのかなといった気もします。ダムの水質管理が最も大切と思うし、それには上流の開発をもっと厳しくし行政の縦割りな考えを広範囲にとらえなければならぬと痛感しますね。

ダムについての説明はよくわかりました。ダムの近くに牛舎が見られますが、少々考えられます糞・尿が地下にしみこむ様に思えます。人工の魚道は昔の自然を思い出し心なごみました。

初めて青野ダムを見る機会を得て幸せです。特に新設の魚道は勉強になりました。環境が改正河川法に入ったのだから、もっとPRすべきだとおもいますが・・・私も今日初めて知りました。

(青野ダムの多自然型魚道について)0.2m³/sの流量で、早瀬が目立ち、平瀬が少ないようだ。魚道巾がほぼ一定なので中流部(1/150)に変化が欲しい。河床材料が均一化しているように思った。初めての多自然型魚道、すばらしい試みだと思います。周辺環境になじんでいると思う。今後の改良により工事をしたことすら見えないような自然にとけ込んだ魚道になって行くことを願っています。

す。

魚道の効用について知るためにモニタリングをして数値で示してほしい。全般的に説明がていねいでわかりやすかったが、不利にはたらくかもしれない部分で数値がややあいまいなのが気になりました。

魚道。PRをもっと行い県民、市民に開放してもらいたい。期待します。具体的な説明をもとめます。川をきれいにすることが第一です。

大人やおじいさんへの広報よりも次世代をになう子供達への広報活動にも「力」を入れてください。例えば小学校への「出前授業」や小学生用の「副読本」の企画をぜひ考えてください。

停電時のダムのゲートはどうやって動かすのか。量水標などテレメーターの停電時のバックアップは、

交通の便等で行けなかった処ですが、この度、参加の機会を得てよかったですと思います。多目的ダムとの事ですので、今後、又、行楽等々来たいと思います。

やや早口だったのは残念。参考になった。民話や伝統的な話も書いたものが欲しかった。今後も案内いただければ幸せですが。

説明については、一応のレベルで分かりやすかった。参加者の大半が「武庫川ダム」を否定する人達で、広く一般県民が参加する企画として不本意です。最初から主催者と接点が見られない。千丈寺湖の水質と周辺の環境保全活動にダム及び、河川管理者としての県の姿が見えるように展開されたい。青野ダムパンフレッド中の貯水池周辺環境整備平面図のカット写真は、竣工当時より「現在の緑したたる」ものを利用すべし。武庫川の伝承、歴史を含めた最初の説明が分かりやすかった。

今回、初めて青野ダムを見学して「町の中にあるダム」であることがよく分かった。今後も、武庫川全体を知るための勉強会を開催して下さい。

ダムだけではなく自然環境に配慮した工夫ですばらしい景観と健康的な公園遊歩道など整備されて模範的な事業と感心しました。

魚道に感心した。

個別の質問にもたいへんていねいに説明して下さいとてもわかりやすかった。これを今後はどうつなげていくか難しいですね。

3回とも出席させて頂きました。ありがとうございました。今までにない、行政の考え方に触れることができ、前向きな担当者達にお会いできて嬉しかったです。知識は要らない、知恵が欲しいが出色でした。(民意というものをどこまで反映しなければいけないかは別問題として。)自然の豊かな地域は用地にも余裕があり、多自然型もよく似合いますね。長く浅い魚道では鳥の給餌場になっているのでは・・・と勇んで見に行きました。深さがあり杞憂に終わったと言うべきか、残念というべきか。素朴な疑問ですが、環境破壊と反対する人たちは哺乳動物の人間の生命・財産の破壊は反対ではないのでしょうか(過剰反応の動物保護団体もしかり)担当職員の方々、休日にも拘らず本当にありがとうございました。また開催してください。

できる限り原文のままとしましたが、一部修正、編集しています。また、読みとり違い等がありましたらご容赦願います。